

## 平成24年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(菟野町)の概要

11月24日(土)に菟野町の田光公会堂で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「田光資源と環境を守る会」の皆さん12名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



### 【参加者からの発言】

当日は、参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 休耕田となっている田んぼに草が生えていたので、草をまめに刈って美しくなった。
- 田光川の河川内に、よしが生えていると土砂が堆積し、川底が上がる。しかし、7～8年前からよしを刈っていて、土砂堆積は減ってきており、効果が出ている。
- 自慢ができることは、みんなが共同で作業をする大同。田光を一つにまとめたきた要因になっている。
- 田光でできた米はおいしい。鈴鹿の山からのきれいな水を使っているの、おいしい米ができる。

婦人会の支部長になるまで、婦人会の活動をあまり知らなかった。菰野町では婦人会がなくなってきている中で、田光では婦人会が続けられているので、すごいと思う。他の地域から田光の婦人会にきて、田光を理解するために一生懸命になっている人の姿は自慢できると思う。

食事の用意、みんなで集まって食事をしたり会話をするとところが良い。また、出した料理をおいしいと言ってくれるとうれしい。

村づくりの推進事業に向けて、農政局から審査に訪れた人に、唐辛子汁を用意した。辛いけど、おいしいというお褒めの言葉をいただいた。

コスモス地域交流会では、他の地域から来た人とも一緒になって、和気あいあいとした雰囲気の中で行っており、10年くらい前から続けている。

田光米をPRして、もっと田光の地域内で買ってもらえるように頑張りたい。

春と秋にある祭りには各種団体の方と協力しているが、参加者がだんだんと少なくなっている。若い人が参加してほしい。地域のつながりが、知り合いになって、横のつながりができる場でもあるので、そういう課題が解決できればいい。

老人会には460人いるが、ボランティアで来てもらうのが少ない。みんな農業や孫の世話で忙しい。老人会の役員になって初めて来てもらっているような状況である。

田光米や大豆を地元で消費してもらう仕組みを考えていきたい。

生産組合で主力となっているのは、60歳代であり、若い人がいない。将来はどうなるのか不安。

農地・水・環境保全向上対策として、交付金をもらっている。平成19年に始まったときに5年目以降は独自に続けていくよう言われていたが、5年間、延長してもらった。5年後に交付金がなくなると、今のままの活動を続けていけなくなるので困る。

田口川の河床も上がってきている。大水になると水面が堤防すれすれの状態になっている。

県政だよりでは、いつも津から南しか取り上げてもらえない。北勢地域についても宣伝をお願いしたい。

## 【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

田光地区で行われている「大同(だいどう)」は、みえ県民力ビジョンにある協創の先進事例であり、ますますこの活動を発展させて、地域活動のリーダーとして頑張ってください。

元気な人が多いので、ボランティアに参加してもらえないというのは他の地域にはない問題だ。

担い手の問題について、県でも就農サポートリーダー制度を実施しているが、若者の実態のようなものを教えていただきたいと思う。

農地・水・環境保全向上対策の交付金が終わる5年後をどうしていくかを私たちも一緒に膝を突き合わせて、考えていきたい。

河床の問題については、緊急度など現場をみながら判断をしていきたい。



#### 【田光（たびか）資源と環境を守る会とは】

農家の方だけでなく、地域に住む多様な主体が参加して農地を保全する「農地・水・環境保全向上対策」の菰野町田光地区での活動組織として平成19年4月に設立。

地区内のため池の池干し取組を通じてブラックバスなどの外来魚を駆除して在来魚を保護する活動のほか、コスモス畑での地域外住民との交流、地元小学校と連携した農業体験学習、環境に配慮した方法で生産する大豆や米のブランド化に取り組まれています。

これらの活動が評価され、平成24年10月29日に平成24年度豊かなむらづくり全国表彰事業における農林水産大臣賞を受賞されました。